

マイウェイ

No.78
2011

かながわ 民俗芸能物語

—横須賀・三浦編—

監修・文 石井一躬

写真 桜井ただひさ

財団法人はまぎん産業文化振興財団

平成23年3月発行 ● 発行人 小川 是 ● 編集人 富安良和 ● 発行 財団法人はまぎん産業文化振興財団 〒220-8611 横浜市西区みなとみらい3-1-1 ☎045-252-1171(直通) 朝西北社 大日本印刷株式会社



石井一躬 神奈川県民俗芸能保存協会会長
ユネスコの「無形文化遺産」に登録された三崎のチャッキラコをはじめ、三浦半島の農村、漁村に暮らす人々により、代々受け継がれてきた芸能をご紹介します。

神奈川の民俗芸能の歴史的背景と多様性

湯立神楽と里神楽

かながわの地は古くから都と陸奥とを結ぶ交通の要衝でしたが、鎌倉へ幕府が開かれてからは、鎌倉への陸海の交通路が発達し、内外の物資や文物の交流が促進されるとともに新たな武家文化や鎌倉仏教が興りました。その後、

江戸に徳川幕府が置かれると、江戸に通じる東海道や県の北部を通る甲州街道等の街道沿いには宿場町ができ、周辺の農村も発達しました。このような歴史的背景のもとにさまざまな経緯を経て積み重ねられてきた神奈川の民俗芸能やその母胎である祭祀行事は、きわめて多様性に富んでいて全国的にも

貴重なものが数多くあります。たとえば鎌倉市を中心に横浜市や藤沢市・三浦半島などで広く行われているものに湯立神楽がありますが、これは、古くから神聖なものとされてきた湯釜ゆがまの湯の力で清め祓いを行うもので、神奈川では主に夏に行われるというのが大きな特徴です。

また、これとは別に神代神楽・里神楽と呼ばれる神楽が県内各地に伝えられています。これは古代の神話などを題材にした仮面かめん黙劇もくげきです。仮面をつけた舞を神職一人で行う禰宜舞ねぎまいというのもあります。さらに、かつて獅子ししを舞

わすとともに伊勢神宮のお札ふだをもって全国各地を巡った伊勢の大神楽の流れを汲む大神楽も、数的には少ないのですが幾つか伝えられていますし、箱根に二カ所伝わる湯立獅子舞（湯立獅子神楽）は、この大神楽の獅子と湯立が結びついたものと考えられ、全国的にもきわめて珍しいものです。

さまざまな風流踊り

「風流」と書いて、日本の芸能史では「フリーユウ」と読みます。もともとは「雅やかなもの」「優雅なもの」という意味でしたが、後にさまざまな意匠を凝らしてきらびやかに装飾した祭礼の山車だしや、華やかな扮装や仮装をして、



厚木の面芝居「源三位頼政鶴退治」厚木市酒井・相模里神楽 垣澤社中。主に神代神楽の神楽師によって演じられる仮面黙劇。セリフがなく、退屈なこともあり、しだいに飽きられてきたため、明治の中ごろに歌舞伎の趣向を取り入れて観客を喜ばせようとしたのが始まりという。[2010 かながわ民俗芸能祭]（はまぎんホールヴィアマール）より。

囃子物を奏して踊った踊りをいうようにもなりました。

ささら踊りは、神奈川を代表する風流踊りの一つです。小さな割り竹をつないだピンザサラという楽器を手にして踊るところから近年こう呼ばれるようになりましたが、古くはたんに盆踊り・盆唄等と呼ばれ、少女を主とする若い女性たちによって踊られました。

一方、男性だけによって踊られるものに、鹿島踊りがあります。この踊りは、小田原市から静岡県東伊豆町にかけての海岸沿いにかつては二十数カ所



で踊られていたのですが、現在は神奈川でも小田原市根府川と湯河原町の吉浜と鍛冶屋、真鶴町真鶴の四カ所にか残っていない貴重な芸能の一つです。また、一人立三頭獅子舞は、主に関東や東北地方を中心に演じられる腹部につけた鞆鼓を撥で打ちながら劍獅子・巻獅子・玉獅子親子に見立てた三頭が一組となつて踊るもので、西日本ではあまり見られないものです。

横須賀市の虎踊りは虎を疫神に見立てて調伏するというものですが、近松門左衛門の『国性爺合戦』の趣向が取



上と右下／遠藤ささら盆踊り 藤沢市遠藤・遠藤民俗芸能保存会。明治のころまでは旧相模国のほぼ一帯で盆の踊りや唄として踊られていたが、大正期に廃れてしまい、戦後になり、南足柄市や各地で復活した。左下／五郎神社の鹿島踊り 湯河原町鍛冶屋・鍛冶屋鹿島踊り保存会。白張や烏帽子などの装束や弥勒唄から鹿島神宮との関わりがいわれているが、詳しくは分からず、謎の芸能という。「2010 かながわ民俗芸能祭」(はまぎんホールヴィアマーレ)より。

り入れられた珍しいものです。

中井町・大磯町に伝わる鷺舞も動物風流の希少な芸能の一つです。山北町共和のお峰入りは、江戸時代には行われていたという記録の残る、修験道の行事に風流が加わった大がかりなものです。

人形芝居と地芝居

そのほか、神奈川には相模人形芝居と呼ばれる三人遣いの人形芝居が五座ありますが、これは、人形の頭の仕組みが文楽の人形よりも古いといわれ、日本の人形芝居の歴史を知る上で貴重なものとなっています。

また、数は少なくなりましたが、い

わゆる地芝居と呼ばれる素人歌舞伎も数座行われています。そして歌舞伎とは直接的には結びつきませんが、その影響を少なからず受けているものに館屋踊りがあります。

紙幅の都合ですべての芸能にふれることはできませんでしたが、本誌では、神奈川に伝えられた民俗芸能を今後、地域別に取り上げていく予定です。第一回目となる今回は、横須賀・三浦地区の民俗芸能をご紹介します。

石井一躬(いしい かずみ) ●神奈川県民俗芸能保存協会会長。1941年、北海道函館市生まれ。早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了。県立高校教員の傍ら、県内を始め全国各地の民俗芸能の調査研究に従事。日本芸能史専攻。

飴屋踊り

横須賀市長井 ◆ 三浦市菊名

飴売りの面白おかしい仕種を取り入れたという飴屋踊りには、かつての農村芝居の雰囲気色が濃く残されています。



「三番叟」（長井の飴屋踊り）より。

房総から関東各地に伝承

三浦半島には、江戸時代の終わりの房総半島から伝えられたといわれる飴屋踊りと呼ばれる芸能が、現在横須賀市長井と三浦市菊名の二カ所に残っています。飴売りが街頭での人寄せのために演じた歌舞をまねたものといわれていますが、その発祥の地も時代も詳しいことは分かっていません。

神奈川県、千葉県、埼玉県、茨城県

南部、東京都の周辺農村部の関東各地に主として伝えられてきましたが、北地方にもその影響を受けたと思われるものがあります。神奈川県では一般に飴屋踊りと呼ばれますが、千葉では主に中山踊り、埼玉・東京等では豊年満作・万作踊りなどと呼ばれています。

演目には大きく手踊りと段物とがあり、手踊りは踊りが主で、簡単な科白が入ることもあり、「白松（枅）粉屋」「新川」「子守」「かきがら」等の

曲目があります。また、段物は歌舞伎や地芝居等の演目を取り入れたもので、科白の入った芝居仕立てのもので、「笠松峠」「五段目」「阿漕平治」等の演目があります。

本来は扮装した男性、とくに青年によつて演じられたもので、踊りは、すり鉦・ツケ（古くは三味線も加わっていたともいわれています）の伴奏で、音頭取り（歌上げともよばれる歌い手の歌）に合わせて演じられます。



長井の飴屋踊り（横須賀市指定重要無形民俗文化財）長井町飴屋保存会。戦後一時期途絶えた後、昭和48年に復活してからは小中学生の女子により受け継がれ、「白枅粉屋」「ねんねこ」「新川」「三番叟」の4演目が演じられている。上は「ねんねこ」。幕末から大正期の村の生活を表現したもので、父母の留守に子守をする娘の恋心や子守の難しさが演じられる。左と下は「白枅粉屋」。江戸末期の粉屋の娘と、娘を慕い婿になろうとする若者の思いを表現している。「よこすかの民俗芸能」横須賀市立総合高校SEAホールより。





写真上は『仮名手本忠臣蔵』の五段目から引いた「五段目」。中右は、鬼神のお松という女山賊を題材にした「笠松峠」。中左は、「細田の奴」。娘に言い寄る奴や和尚との掛け合いの所作が滑稽で面白い。右下／演目が終わると、裏方さんや出演者全員が挨拶をして幕が下りる。「小さいときに舞台を観て、いつか自分も舞台の上で踊りたかった。夢がかなってうれしい」と語っていた女性演者の言葉が印象的だった。



菊名のあめや踊り（神奈川県指定無形民俗文化財）菊名あめや踊保存会。白山神社の例祭に奉納される芸能で、鈴屋踊りの元歌とされる「白松粉屋」（写真の中と左下）をはじめ7つの演目が上演された。右上2点は、楽屋風景。右下は、白山神社社殿と幕が開くのを待つ観客。

地元の女性たちにより復活

横須賀市長井では、かつては熊野神社の祭礼やお祝いの宴席などに招かれて演じていましたが、戦中・戦後は戦争の影響や後継者不足等のため一時途絶え、昭和四十八年（一九七三）以後地元の小中学校の生徒たちに受け継がれ今日に至っています。現在では、女子が主となり、二十以上あった演目の中から、「三番叟」^{さんぼそう}、「ねんねこ」^{ねんねこ}、「白粉屋」^{しろこな}「新川」の四演目を演じています。菊名のあめや踊りは、十月に白山神社の下にあるかつての麦畑に芝居小屋を設けて奉納されてきました。大勢の見物客が訪れ夜遅くまで賑わったよう

ですが、平成の初めごろになって、いわゆる少子高齢化の影響もあり、地元ではもう演じられなくなってしまうまいした。ところが平成十九年（二〇〇七）になって、地元の女性たちの地域の伝統芸能を習いたい、伝えたいという熱心な声をうけ、古老の方々の指導をもとに見事復活しました。

菊名を訪れて、とつぷりと暮れた晩秋の闇の中、浜からの風に舞台の引き幕が揺れ、周りの屋台からはおいしそうな匂いが立ち込めます。食い入るように舞台を見詰める観客たちの中に身を置くと、日本の祭りの原点ともいえるべき光景に得も言われぬ安堵感・郷愁が感じられます。

虎踊り

横須賀市西浦賀

親子とされる大小二体の虎が舞台狭しと暴れまわる虎踊り。アクロバットを思わせる、さまざまな芸が見どころです。

日本では古くから虎は風を御するものとして信じられ、火難を防止する靈獣として、神社の境内をはじめ、日本各地の舞台で演じられてきました。しかし、その一方で、虎の猛々しさを人々に災いをなす疫病の象徴とすることで、神の御威徳によって圧伏され、結果として人々の幸せを招来するものとして扱われている例があります。

横須賀市西浦賀（旧浦賀浜町）と野比（旧野比中村）に伝わる虎踊りは、その

幕が開くと、舞台中央の床机に腰を下ろした男児が演じる和藤内が立ち上がり、ツケに合わせて大きく足をあげ一、二歩前へ踏み出して下手に向かって、「和藤内これにあり。者ども早う参れ、参れ」と大音を発すると、唐服・唐冠を身につけ軍配扇を手にした唐人が、主に小学生の女兒の演じる唐子たちを従えて登場します。

和藤内が踊りを所望し、それに応じた大唐人の合図で唐子たちの踊りが始まります。唐子踊りが終わるころ、後ろの竹藪の中から虎が飛び出し、唐子たちが逃げ去った舞台を縦横無忌に動き回り、谷渡り、虎返し、一本杉、鶴の餌拾い、シツチヨイ、手ツカエ、逆飛びといった芸



浦賀の虎踊り（神奈川県指定無形民俗文化財・国選択無形民俗文化財 浦賀虎踊り保存会、近松門左衛門作 国性爺合戦の主人公・和藤内の虎退治を題材とした踊りで、和藤内には12〜13歳の男児が演じ、8歳から10歳の女兒による唐子踊り（右ページ上）のあとに、大小二体の虎が登場。大虎は成年男子、小虎は未成年男子が扮し、曲芸まがいの芸を披露し、最後に和藤内が、叶明神の木札をかかげ、虎を退治する。「よこすかの民俗芸能」横須賀市立総合高校SEAホールより。

典型的な例です。

浦賀の虎踊りは、毎年六月第二土曜日の夕刻西浦賀の叶神社の末社、為朝神社例祭の宵宮に演じられるもので、伝承によると享保五年（一七二〇）に伊豆下田から浦賀へ奉行所が移されたのと一緒にこの地へ伝えられたとのこと。

虎は親子とされる大小の二体で、大虎には青年が、小虎には男児がそれぞれ二人ずつ入り、笛や太鼓に三味線という囃子に合わせて演じます。

を披露します。やがて舞台後方で控えていた和藤内が立ち上がり、虎の頭部を押さえつけ、叶神社のお札を右腕高く掲げ、「アリア、アリア、ありがたや、叶明神の威徳をもって、虎もやすやす従えたり、皆々勇んで、カツピキエー」と見得を切つて幕となります。

大筋は以上のようなものですが、この虎踊り全体の仕組みは、江戸時代に近松門左衛門によって作られた浄瑠璃『国性爺合戦』に引かれたものであり、それに唐子の踊りや虎の芸などが加わって構成されています。こうした工夫洗練の積み重ねこそ、この芸能が三百年近くにわたつてこの地に受け継がれてきた一つの要因といえるでしょう。



紅隈の化粧をした歌舞伎役者のような和藤内。

チャツキラコ

三浦市三崎

揃いの晴れ着姿の少女たちが、舞扇やチャツキラコと呼ばれる綾竹を手に、繊細優美な踊りを奉納します。



チャツキラコ（国指定重要無形民俗文化財）ちゃつきらこ保存会。2009年にユネスコの「無形文化遺産リスト」に登録され、神奈川を代表する民俗芸能として県外でも知られるようになった。正月の晴れ着に髪飾りの少女たちが綾竹や舞扇をもって踊る姿は艶やかで、微笑ましい。花暮地区の本宮で踊りを奉納（上）したあと、海南神社で奉納（中）。その後、町内各所を練り歩き、旧家や老舗の商家などで舞いを披露する（左下）。

三浦市三崎の仲崎・花暮の両地域では、平成二十一年（二〇〇九）年九月にユネスコの無形文化遺産に登録された、少女たちによる古風で優美な踊りが小正月の伝統行事として行われています。毎年一月十五日の午前十時ごろ花暮の本宮で海南神社の神職によるお祓いを受けて踊りを奉納した後、海南神社の神前で踊りを奉納します。その後は、午後から夕方にかけて、町内の有志の家々に招かれ踊って回ります。踊り手は、幼稚園から小学校六年生までの女の子たちです。揃いの晴れ着姿で、舞扇や踊りの名前の由来となつ

たと思われる、二十センチほどの二本の竹の両端に五色の紙を細く切った短冊と小さな鈴をつけたチャツキラコと呼ばれる綾竹を手にして、音頭取りと呼ばれる女性たちの歌う唄にあわせて踊ります。

踊りは、舞扇を右手にもつ「初いせ」、綾竹を両手にもつ「チャツキラコ」、舞扇を両手にもつ「二本踊り」、舞扇を右手にもつ「よささ節」、舞扇を右手にもつ「鎌倉節」、たたんだままの舞扇を右手にもち肩にかけて右回りに回る「お伊勢参り」の六曲から構成されますが、これらを総称してチャ

ツキラコと呼んでいます。踊りの起源には定まったものではありませんが、三崎に残る古文書によると江戸時代中期には行われていたのではないかといわれます。

伝説には、海南神社のご祭神藤原資盈公の奥方盈渡姫が村の娘たちに教えたという説と、源頼朝が三崎に来遊した折、海辺で磯取りをしていた親子連れの女に踊りを所望したところ、自分は年老いているので代わりに娘に踊らせましようと言った小竹を娘が持つて踊り、母が歌ったという説があります。

面神楽

三浦市三崎

三崎の海南神社に伝わる神事で、主として日本神話を演じる仮面黙劇です。演者はすべて氏子という全国的にもめずらしい芸能です。



葉粥の神事と面神楽

神楽を大きく分けると、宮中の御神楽と民間の里神楽の二つに分けられますが、この里神楽の一つに古代の神話などを題材にして、笛、太鼓、締太鼓、鉦などの楽器を用いて囃す仮面黙劇で神代神楽と呼ばれるものがあります。面神楽はこの神代神楽と同じもので三崎地方独特の呼び名です。この神楽の特徴は、神職や専門の神楽師によ

って演じられるのではなく、すべて海南神社の氏子によって演じられることです。

海南神社では、毎年十一月の初めの未(ひつじ)の日に行われる「出居戸祭」には、「デットの神楽」、または「デットウの神楽」と呼ばれる湯立神楽が行われます。

この日は、海南神社のご祭神藤原資盈と盈渡姫が貞観六年(八六四)十一月一日(未の日)に三崎の花暮の地に



明治期を中心に約50種の神楽面が伝えられている。



海南神社の面神楽(三浦市指定重要無形民俗文化財)海南神社面神楽保存神楽師会。毎年11月初旬の未の日に湯立神事が行われ、翠申・酉の面の夕刻から神社境内の神楽殿で演じられる。太鼓や笛などの囃子は長老の役。囃子で舞う最初の演目は「国固め」(右ページ)で、最初に演じることから「始の面」といわれる。上・その右下は「宝剣取り」。中左と右下は「恵比寿の舞」。漁業の町である三崎では欠かせない演目とされる。左下/境内の神楽殿。

漂着なさった日で、霞が降り続く寒い日であったといわれています。そこで村人は温かい菜をきざんで入れた粥を差し上げて飢えと寒さから救ったという故事があります。この故事にちなんで、この日には「葉粥の神事」といって海南神社の神職によって大きな湯釜の湯で祓い清める湯立神事(湯立神楽)が行われ、その後餠がまかれてきました。そして、翠申(ささぎ)・酉(とり)の二日間、境内の神楽殿で面神楽が行われます。

暮らしと結びついた芸能

面神楽の演目は、「国固め」に始まり、「宝剣取り」「恵比寿の舞」「大江

横須賀・三浦の民俗芸能カレンダー

横須賀・三浦の主な祭り、民俗芸能のスケジュールをご紹介します。

◆おんべ焼き

1月上旬～小正月。久里浜から三浦にかけての海岸各地。正月で使った門松やしめ縄、神棚のお札、だるまなどを焼やして新年の家内安全と無病息災を祈る。問：スカナビ



◆チャッキラコ

1月15日。海南神社。12ページ参照。問：三浦市教育部生涯学習課

◆武山初不動

1月28日。武山不動尊（横須賀市武）。豊漁や航海安全祈願で信仰を寄せられてきた本尊の不動明王がご開帳となる恒例の行事。問：武山観光協会

◆いなりっこ

2月11日。海南神社。江戸時代から続くといわれる子どもたちによる豊作、大漁祈願の面神楽。問：三浦市教育部生涯学習課



◆浦賀の虎踊り

6月第2土曜日。為朝神社。10ページ参照。問：横須賀市教育委員会生涯学習課

◆海南神社の夏の例大祭

7月海の日の前の土曜日。海南神社。行道獅子の舞いや御輿、山車、ぶち合わせ太鼓や木遣り衆など見せ場が多い。問：三浦市教育部生涯学習課

◆野比の虎踊り

隔年の7月。白髭神社（横須賀市野比）。[和唐入][大将]10人前後の子どもによる「唐子」、虎1頭が登場し、囃子に合わせて踊る。問：横須賀市教育委員会生涯学習課

◆佐島の船祭

7月第3日曜日。熊野神社（横須賀市佐島）。神輿の海上渡御が3年に1度行われる大漁祈願の勇壮な船祭り。神輿が練り歩く順路で奉納される「佐島御船歌」も聞き応えがある。問：横須賀市教育委員会生涯学習課

◆三戸のお精霊(オショロ)流し

8月16日。三浦市初声町三戸。「セイトッコ」と呼ばれる子どもたちが霊を浄土に返す盆送りの行事。藁で作った大きな3隻のお精霊舟に、お盆にお供えしたお精霊様や供物を満載して、子どもたちが沖へと曳いていく。問：三浦市教育部生涯学習課



◆世計り神事

8月最終土日曜日。森山神社（葉山町）例大祭。滝の坂の吾妻神社の水を汲んで持ち帰り、神水を麴とともに甕に入れて神殿に納め、翌年、甕の水(酒)の減り具合と木札の落ち方によって、五穀の豊凶・風位・気候を占う神事。問：葉山町観光協会



◆菊名のあめや踊り

10月下旬の日曜日。白山神社（三浦市南下浦町）。8ページ参照。問：三浦市教育部生涯学習課

◆海南神社の面神楽

11月初めの申、西の両日。海南神社。14ページ参照。問：三浦市教育部生涯学習課

◆長井の館屋踊り

横須賀市長井。横須賀民俗芸能祭ほか。6ページ参照。問：横須賀市教育委員会生涯学習課



上/「大江山」。大江山に住む悪鬼・酒呑童子を源頼光が討伐するという御伽草紙を題材にしている酒を飲む場面。左/天照大神の岩戸開きに材をとった「岩戸開き」。

山」等全部で二十五座あります。「国固め」は、最初に演じられることから「始の面」ともいわれ、この舞が舞われないと次の演目に進むことができないという大事なものです。登場する神は国常立神で、大きな御幣をもって塩をまいて舞殿の四方を祓い清め、お米をまいて五穀(米・麦・粟・黍・豆など五種類の穀物)の豊作とあわせて国家の安泰を願う舞を舞います。面神楽では道化と呼びますが、神に続いて滑稽な動作を演じるモドキが登場するのも、この神楽の特徴です。また、「恵比寿の舞」は、海上、漁業の守護神である恵比寿様が大きな鯛を釣り上げる様子が、里人の道化たち

や目を汚した里人を治療する医者などをからませて面白おかしく展開させ、笑いを誘います。このような舞台を見ていると、なぜかホッとする和やかな気持ちになります。以前は不漁が続くと、「漁神楽」といって、大漁祈願のための舞が奉納されました。その後、大漁があると「お礼神楽」といって海幸彦・山幸彦の神話を取り込んだ「浦島太郎」の舞が奉納されるようになったといえます。芸能というものが、たんに娯楽としてあっただけではなく、未の日の湯立の神事を含めて、この地に住む人々の生活と深く結びついてきたことがうかがわれます。

問い合わせ先 ●スカナビ i: 046-822-8301 / 三浦市教育委員会生涯学習課: 046-882-1111 / 武山観光協会: 046-856-3157 / 横須賀市教育委員会生涯学習課: 046-822-8484 / 葉山町観光協会: 046-876-1111

下/派遣団一行とローマのバル（居酒屋兼軽食堂）で撮影。右上/古代ローマの遺跡コロッセウムで。右下/バチカン市国のサンピエトロ大聖堂。



海外派遣事業のご紹介

国際的視野の広い中小企業青年従業員の育成を目的として、昭和45年に「神奈川県中小企業技術者等海外派遣事業」を、また、平成1年に「神奈川県商業従業者海外派遣事業」を開始し、継続実施しております。現在まで、中小企業技術者等派遣事業に約830名、商業従業者派遣事業に約160名の方々が派遣団員として参加され、欧州の先進国で貴重な視察研修を体験されています。応募要領等詳しくは、ホームページをご覧ください。

いかに居心地のよさを
提供することができているかが
接客の基本です。

鎌倉市小町 (株) ビバリーユ 西條 誠さん



鎌倉とんかつ味武蔵の
店長・西條さん (37歳)

西洋の成熟した食文化を視察

昨年十一月に、「第十六回神奈川県商業従業者海外派遣団」に参加させていただきました。視察先は、フランスのパリ、ランス、リヨンとイタリアのローマの四都市です。

現在私は、藤沢市の湘南モートルフイ

リアにだけは行きたいと思っていました。両国とも、食の大国です。世界有数の食文化を育んできた国ですからね。そういう国のレストランで食事をして、成熟した食文化を肌で感じてくれるだけでもいいのではないかと。できれば接客サービスの違いなどを、この目で確かめたい。今回の視察では、そんな願いが叶えられて、しかも期待以上の成果をいただきました。日々、まさに感動的でしたね。

スタッフを大切にする姿勢

視察先は、団員の職種が飲食関係、なかでも酒販関連の方が多いというところもあって、ワイナリーが三方所とシ

ルという大型ショッピングセンターにある「味武蔵」というとんかつ屋で、店長として接客業務を行っています。わが社(株式会社ビバリーユ)は、和食だけではなく、県内を中心に七店舗のイタリアンレストラン「アマルフイ」を運営していますので、ヨーロッパに行くならぜひ、フランスとイタ

ヤンパンの製造で有名なモエ・エ・シヤンドン社、それにスーパーマーケットや高級食料品専門店、レストラン、バル、ドラッグストア、古物商など、どこも観光客が行かないような個人的なところばかりでした。しかし、共通して感じられたことは、経営者だけではなく、スタッフがみな生き生きと生きていて、仕事に対する誇り、情熱をもっていることでした。ドラッグストアやレストランでの接客態度にもそれが表れていました。

印象的だったのは、ローマで視察した古物商、日本でいうなら高級質屋さんですが、この女性経営者のスタッフを大切にしている姿勢には感動すら覚え

西條さんが店長を務める「鎌倉とんかつ味武蔵」藤沢店の前で、スタッフと。「味武蔵」は、湘南最大級のショッピングセンター・湘南モールFILL（右下）1階にある。左下は、人気メニューのひとつ「にんにく味噌とんかつ」。にんにく好きの人にはこたえられない逸品と評判だ。



〔辻堂駅とその周辺〕 左上／再開発中の駅北口。右上／奈良時代よりの歴史をもつ烏森皇大神宮。下2点／辻堂海浜公園。左は、辻堂海水浴場。



ました。「スタッフは、スタッフは」と、何かというとスタッフの話ばかりで、圧倒されるほどでしたね。

ローマは第二のふるさと

接客の基本は、お客さまへの最適なサービス、飲食店ならば、「居心地のよさ」を提供することだと思えますが、基本は同じでも日本とはずいぶん違います。日本人のもてなしには茶道の影響もあり、礼儀正しいのはいいのですが、お客さまとの間に距離があります。その点、かれらは、陽気だし、よくしゃべる。「いらっしやい」と言われたとたんに、なんだか長年の知己のような雰囲気になってしまふ。距離感がな

くなってしまふんですね。

日本人の笑顔は、どこかマニュアル化された笑顔ですが、かれらは普段通りの自然体でお客さまと接しているように感じられました。かといって、行儀が悪いわけではありません。一人ひとりのお客さまをちゃんと見ています。静かに食事を楽しんでいるお客さまには静かに接していました。その使い分け、気配りがすごい。ですから、とても居心地がいい。僕なんかは、日本人でもラテン気質の方ですから、いつべんに好きになってしまいました。パリもいいけど、今やローマは第二のふるさとです（笑）。

ローマには三日間いましたが、同じ

パールに通いつめて、そのスタッフの方と友達になって、フェイスブックで情報交換をしていますよ。（談）



西條誠（さいじょうまこと）昭和48年、小田原生まれ。平成16年、株ビィパリュエーに入社し、現在は鎌倉とんかつ味武蔵 藤沢店店長。

ロビーコンサート(ランチタイムコンサート)

- 会場 横浜銀行本店ビル2階本店営業部ロビー
- 時間 12時15分～12時45分(30分)

開催日	内容	出演者	曲目
5/9	アンデスのふえ ケーナ	山下Topo洋平 (ケーナ) 渡辺かづき (電子ピアノ)	コンドルは飛んで行く (D.A.ロプレス) ポケットの中のスカイプルー (山下Topo洋平) 他
7/11	ハーモニカの 魅力	和谷泰扶 (クロマティック ハーモニカ) 和谷麻里子 (電子ピアノ)	チャルダッシュ (ヴィットリオ・モンティ) リベルタンゴ (アストル・ピアソラ) 他

《予約制》

ラウンジコンサート(アフタヌーンコンサート)

- 会場 横浜銀行本店ビル1階ラウンジ「ル・ポール」
- 時間 15時00分～16時00分(1時間)

開催日	内容	出演者	曲目
6/13	リコーダーは うたう	太田光子 (リコーダー)	笛の楽園より (J.ファン エイク) リコーダーのための華麗なる ソナタ(A.ヘーベルレ) 他

太田光子さん。



和谷泰扶さん。



山下Topo洋平さん。



●次号予告(2011年6月下旬刊行)
「かながわ童謡・唱歌物語」(仮題)

事務局参与 清水照雄

た。本号を第一号として、順次、各地に伝わる民俗芸能をご紹介いたします。昨年十二月には新たな催しとして、「かながわ民俗芸能祭」が始まりましたが、この民俗芸能祭への共催参加と併せまして、微力ながら、民俗芸能の保存・継承のお役に立つことができ得るならば誠に幸いです。

最後になりましたが、監修をいただいた石井一躬氏をはじめ、取材にご協力いただいた皆さま方に、厚く御礼を申し上げます。

財団法人はまぎん産業文化振興財団

はまぎん財団ふれあいコンサート2011のご案内

「はまぎん財団ロビー&ラウンジコンサート」は昨年7月に開始し、多くの方々のご来場をいただくことができました。平成23年度も引き続き開催(無料)いたしますが、演奏内容の充実と、より多くの皆様方にお楽しみいただくため、ロビーとラウンジでの開催の他、新たに「はまぎんホール ヴィアマール」を会場に加え、開催回数も年6回から9回に拡大いたします。また、名称を「はまぎん財団ふれあいコンサート」に変更いたしました。5月から7月までの開催内容は左記のとおりです。なお、ラウンジコンサートは予約制となります。8月以降につきましては、別途ホームページ、インフォメーション等でお知らせいたします。

ラウンジコンサートのご予約申込方法は次のとおりです。

- 募集人員 60名
- 申込方法 往復はがき1枚に、郵便番号・住所・電話番号・1名または2名参加を明記のうえ、〒220-8611 横浜市西区みなとみらい3-1-1「はまぎん財団コンサート係」まで、お申し込みください。
- 募集期限 平成23年5月10日(火)(当日消印有効)
申込多数の場合には、抽選となりますので、予めご了承ください。
※はがきに記載された個人情報は、催事のお申し込みのみに使用し、厳正にお取り扱いします。
- お問い合わせ 財団法人はまぎん産業文化振興財団事務局
(横浜銀行本店ビル13階内 電話045-225-2171、平日9時～17時)
- 交通アクセス JR線・横浜市営地下鉄線 桜木町駅下車、動く歩道利用徒歩5分、みなとみらい線みなとみらい駅下車7分
- 協賛 横浜銀行
- 協力 特別非営利活動法人 大倉山水曜コンサート

民俗芸能は、地域の長い歴史の中で、人々の絆や地域のつながりによって育まれた暮らしの文化の証であり、郷土の誇りとするものです。

神奈川県内には、神楽・風流踊り・人形芝居など様々な民俗芸能が各地に代々受け継がれ、私たちに貴重な文化を伝えていきます。一方では、地域の生活環境の変化に伴い、指導者の高齢化や後継者の不足など、その保存と継承が大きな課題とされておりまして。

今般、このかけがえのない民俗芸能を広く県民の皆さま方にご紹介するとともに一層のご理解・ご協力をいただくため、「かながわ民俗芸能物語」横須賀・三浦編」を刊行いたしました。